

いきいき健康生活
鴻巣市広報「かがやき」 平成21年3月15日号 掲載
乳がんについて

乳がんについては、皆さんの関心も高く、ある程度の知識をお持ちでしょうが、基本的なところをもう一度復習してみましょう。乳がんが、自分で発見することの出来る数少ないがんであることはご存知のことと思いますが、自己検診に不安を感じている方も少なくないようです。

しかしながら、自己検診は乳がん発見にいたる ” はじめの一步 ” であり、早期発見への重要な手段です。難しいことをする必要はありません。お風呂に入ったときに、指を曲げずに手のひらで軽く押しながらなぞってみてください。そして、なにかいつもと違うと感じたら、乳腺外科を受診してください。

ここで注意していただきたいことは、乳がんの診断・治療を行っているのは、婦人科ではなく外科だということ、そしてもっと大事なことは、恥ずかしがらずに必ず専門家に診てもらうことです。

20年以上前、筆者が「東京都立がん検診センター」の乳房・呼吸器科に勤務していた時のことです。そこでは5人の医師が、日によって乳房科と呼吸器科に分かれて検診をしていました。

筆者が呼吸器科を担当していたある日、咳と息苦しさを訴えて受診したという、30代女性の胸部のレントゲン写真が送られてきました。その写真を診てビックリ、両肺のほとんどの部分が多発性の腫瘍でうめつくされ、転移性の肺腫瘍であることは明らかでした。

腫瘍の原発はどこか？患者さんに入ってもらい、まず呼吸音を聞こうと胸を開けてもらってまたビックリ、乳がんが皮膚を突き破って顔を出し、腫瘍自体も割れた状態でした。本人に聞いてみると、数年前から乳房のしこりに気づいてはいたが、恥ずかしくて受診しないままにしていたところ、オデキのようになってきて、そのうち息苦しさも強くなってきたために呼吸器科に来院したとのことでした。

原発が乳房であることは明らかで、乳がんの肺転移と診断されました。時代も変わり、ある程度の知識はメディア等を通じて得られる今（病気に対する恐怖を異常にうえつけるだけの番組も多々あるようですが）、このような例は少ないものと思いますが、早期に受診することの大切さはいつの時代も同じです。